

2020 年度年次大会 パネルディスカッション

テーマ：コロナ禍におけるリスクマネジメント

モデレーター： 内田英二（昭和大学）

パネリスト：

- 第一報告 坪内暁子（順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センター）
「日本の感染症分野における危機管理システムの脆弱性」
- 第二報告 高市幸男（リスク管理研究所代表）
「新型コロナウイルスによる企業倒産とリスク対策」
- 第三報告 山本祥司（第一生命経済研究所）
「新型コロナがもたらす個人と社会のリスク」
- 第四報告 辻純一郎（EPS ホールディングス社外監査役・J&T 治験塾塾長）
「危機管理の観点から見た新型コロナウイルス対応 ～ 次の感染症襲来に備えるために必要なこと」

ファイル 0：挨拶、パネリスト紹介

内田英二 午後の統一論題、パネルディスカッションを始めます。テーマは『コロナ禍におけるリスクマネジメント』です。ウェブ会議は初めてですが、昭和大学の内田がモデレーターを務めます。よろしくお願いいたします。

まず、大会長の千葉先生にごあいさつをお願いします。

千葉 千葉です。井上会長が入試業務で午後から参加するということでしたが、時間に間に合わなかったので、代わりに私がお話します。急なことで何も用意していません。ご参加している先生がた、どうもありがとうございます。私の不手際でご招待が遅れた先生がたがいたことをおわび申し上げます。きょうは『コロナ禍におけるリスクマネジメント』をテーマに、パネルディスカッションを開催します。坪内先生、高市先生、山本先生、辻先生が、それぞれの専門から有意義な議論を展開すると思います。また、内田先生が、パネリストの先生がたの議論を集約してくれると期待しています。

私自身はコロナウイルスの研究者ではありません。大学でもコロナウイルスの流行で遠隔授業を余儀なくされています。大学の教えについてもかなり変化が要求されるようになりました。コロナに対応できる所とできない所で評価が分かれ、それによって業務の展開や発展が見込まれる所とそうではない所に分かれてくるのではないかと思います。

業務のことだけでなく、生活全般にも影響を及ぼしているコロナ禍について、リスクマネジメントの面からどのような対策をとれば、より良い生活を送れるようになるのか。このことについて、議論の中から何かヒントを導き出せればと期待しています。皆さんも、ぜひ 4 名の報告者とモデレーターの先生の議論と、その後のディスカッションの中から、何か新しいものを見つけてほしいと思っています。大したお話はできませんでしたが、以上であいさつに代えさせていただきます。内田先生にお戻しますので、よろしくお願いいたします。

内田英二 千葉先生、突然のお願いにもかかわらず、お話しただいて本当にありがとうございます。

パネルディスカッションの進行についてです。まず私から 4 名の報告者のプロフィールをご紹介します。その後、報告に移ります。4 名の専門分野はかなり異なっております。今回発表していただく方がどのようなプロフィールをお持ちなのかを最初にご紹介します。また、報告者は、「さん」付けでお呼びします。

第一報告ですが、順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センターの坪内暁子さんをお願いしています。坪内さんは順天堂大学大学院医学研究科研究基盤センターの助教で、MBA、医学博士を取得されています。1982年に中央大学法学部卒業、1986年に順天堂大学に転職し、JICA 笹川日中医学プロジェクト、発展途上国の支援事業に従事しています。2008年に、新興感染症対策を研究課題に決定し、開始しています。2009年のSARSの流行を経験した台湾との共同研究を開始し、現在、客員教授を務めています。

2011年の東日本大震災を機に、日本で遅れている感染症対策を中心とした災害対策に研究テーマを変更し、東北大学との共同研究を開始しています。現在も所外研究員として活躍しています。2019年、危機管理システム研究会理事に就任し、同じ年、研究モデルの新宿での取り組みでは、令和元年東京都女性活躍推進大賞地域部門を受賞しています。現在は、災害対策について「伴に」考える研究会の世話人、学校防災を考える会委員、新宿区成城学校避難所運営管理協議会、文京区基本構想推進区民協議会、西東京市男女平等推進センター企画運営委員会の各委員、江戸川区児童相談所はあとポート、はあとシップ・プロジェクト世話人として、産学官民連携を念頭に活動されています。以上が坪内さんのプロフィールとなります。今回は、『日本の感染症分野における危機管理システムの脆弱性』というテーマでお話をいただきます。

第二報告は、高市幸男さんをお願いしています。高市さんは東京商工リサーチの調査員として、与信管理、リスクマネジメントの実務を経験し、取締役就任後、信用調査レポートシステムの開発、企業情報データベースの構築を行っています。現場での豊富な経験にリスクマネジメントの理論を加えた、取引信用リスクマネジメントも展開し、研究、執筆、講演、講義にと活動を広げています。教育関係では、愛知学院大学大学院社会人講座、同大学院経営管理特別研究、龍谷大学経済学部、専修大学大学院一般公開講座、物流大学、愛知県トラック協会、日本薬科大学医療ビジネス薬科学科で講師を担当されています。著書には、『取引・信用リスクマネジメント』、『与信限度の実務』、『会社偽装』等があります。論文は、『決済条件による資金負担の計算と評価』、『新しい与信管理業務のありかた』、『横領リスクにみる内部統制の限界、その対応』、『中小企業において実効性のある情報開示理論の提言』ということで、今回は『新型コロナウイルスによる企業倒産とリスク対策』についてお話しいただきます。

第三報告の山本祥司さんは、1978年、神戸大学法学部を卒業後、第一生命保険会社に入社しました。以後、企業向け融資および審査部門、営業店、国際団体保険、再保険部門、ロンドン駐在、債券投資バックオフィス部門等を経て、第一生命経済研究所に向向しました。長年、戦略立案のベースとなる経営環境分析に携わっています。主に、保険会

社の経営戦略、アセットマネジメント、コーポレートガバナンス、内部統制、SDGsなどを担当しています。今年、第一生命を退職し、非常勤として第一生命経済研究所の委託を継続しつつ、それ以外からも調査、研究業務を請け負っています。アリマスには2010年から参加しています。今回は『新型コロナがもたらす個人と社会のリスク』というテーマで報告させていただきます。

第四報告は、辻純一郎さんです。辻さんは1965年、中央大学法学部法律学科卒業後、エーザイに入社しました。医療機関等に行き、医薬品等の販売や説明をする、MRの薬粧事業本部でマーケティング担当。40歳で法務部に異動し、スモン訴訟や筋拘縮症訴訟などの法務活動の傍ら、日薬協、製薬協、医薬品企業法務研究会（医法研）の協会活動に従事しました。医法研では会長も務めています。2000年に学位論文『臨床研究に係る被験者保護制度の研究』で学位を取得し、法学博士号を取得しています。学位論文を基に、臨床研究の補償制度となる補償ガイドラインを取りまとめ、辻さんの補償のガイドラインが、今、日本で行われているGCP、治験・臨床研究の基本となっています。現在は、EPSホールディングスの社外監査役などの傍ら、ただのおじさんからただならぬおじさんを目指し、千葉県県民講座やうらやす市民大学で『薬と健康講座』、『男の料理教室じいじいクッキング』の世話役、浦安市介護予防リーダーなど、地域活動にも積極的に参加しています。法務時代にアリマスの初代会長徳谷先生とお会いし、アリマスの前身であるリスク談話会に参加され、指田前会長とアリマスの組織化に奔走しています。辻さんには『危機管理の観点から見た新型コロナウイルス対応～次の感染症襲来に備えるために必要なこと』というテーマでお話をいただきます。

以上が4名のプロフィールです。

4名のかたがたの分野がかなり異なりますので、最後のディスカッションでどのような方向性になるか、どのようなテーマになるかが全く読めていません。そういったこともありますので、一つの報告が終わったときに、これはと思う質問がありましたら、挙手して、お話しいただくようにしたいと思います。そのため、各報告者の時間は30分ですが、若干、延びると思いますので、ご容赦いただきたいと思います。

(ファイル1 了)